一般社団法人 日本衣料管理協会

2025 年度 事業計画書

概要

当協会は、繊維製品の品質の管理に関する知識および技術の普及向上を図り、繊維製品の生産、流通および消費の改善合理化に寄与し、国民の健全な衣生活に資することを目的としている。この目的を実現するために、主に衣料管理士（T A）および繊維製品品質管理士（T E S）の認定、並びにT A・T E S資格者の育成・発展策を推進してきた。

昨今、少子化ほかの影響によるT A認定校の減少、繊維業界全体のシュリンクによるT E Sの出願者の減少傾向が大きく、立て直しが急務である。

これまでT A、T E Sのこれからのあり方について、それぞれのワーキンググループで、検討を重ねてきたが、2025年度はさらに変革を推進するべく、可能なものから順次、実行に移す。

また、協会としてI T化を積極的に推し進め、時代の変化に対応していく。

I. 2025 年度事業計画のポイント

1. 衣料管理士（T A）の活性化を図る

衣料管理士（T A）の養成環境は、18歳人口の減少や大学・短期大学における被服関連学科の減少などにより深刻化がさらに増している。

T Aワーキングの検討結果をもとに、養成コースの学生の自覚とレベルアップを目指して卒業時の試験を導入・実施した。今後も社会で役立つ資格となるよう、新しいT Aの認定基準の運用を推進する。一人でも多くのT Aが繊維・ファッション関連業界に就職できるよう広報活動を推進したい。

今後のT A制度のあり方について新しいワーキンググループを立ち上げ、抜本的に見直しを進めていく。

2. 繊維製品品質管理士（T E S）の社会的価値の向上と出願者の確保

T E Sの2024年度の出願者数は、前年比97%とやや下げ止まり傾向が見られたが、ピーク時と比較して半減状態であり、非常に厳しい状況となっている。一昨年より企業・団体を訪問し、出願の依頼を行ってきた。また昨年からの学生割引制度の導入で、ある程度の効果（学生出願は前年比128%）が見られた。

今後は出願者の増加を目指し、繊維業界に関係した団体、企業への働きかけをさらに積極的に行い、出願増進活動を行う予定である。またT E S将来構想部会の活動とも連動し、T E S自体のブランド化、T E S会員の増員、広報活動に力を入れ、活性化を推進していく。

また、2025年度よりT E S試験出願では利便性をより向上させるためWeb申請を取り入れ、出願者の増進につなげていく。

II. 具体的活動計画

1. 衣料管理士（T A）関連事業

(1) T Aの具体的な活動

T Aの質の向上、認知度の向上、資格制度の見直しなどを行い、大学を卒業したT Aが社会の様々な分野で活躍できるように検討を重ねてきた。また、本年度も（一社）日本アパレル・ファッション産業協会や他団体と連携を深め、T AのPRを進め、T Aの価値向上につなげた

い。

① 最終試験の実施

材料、加工・整理、企画・設計・生産、流通・消費の4分野で200問程度の問題集を作成・送付し、各大学では、最終試験を実施する目的などを学生に周知し、2023年度から実施している。

② 専修資格制度の導入

2023年度は5名を認定済み、2024年度は9名を認定予定。今後、専修制度のさらなる周知を進めたい。

(2) 年次報告書の審査〔大学部会〕

大学からの年次報告書に基づき、カリキュラム編成、単位数、教員組織、施設設備など関係事項を審査基準に従って審査する。

時期	内容
6月末日	報告書の提出締め切り
8月初旬	審査
9月	結果通知の送付

(3) TA資格の認定

認定大学において、協会認定・登録カリキュラムを履修して卒業した学生に交付する。

時期	内容
2025年11月初旬	認定証交付申請要領の大学への送付
2026年2月上旬	認定証交付申請書の提出締め切り
2026年3月31日	認定日

※「テキストスタイルアドバイザー実習」については、2025年度までの暫定措置として「実施することを推奨するものの、1級TAの必修とはしない」こととする。2026年度からの措置については、今後検討する。

この措置により、1級TAの認定に必要な単位数は、必修科目が24単位から23単位、選択科目を含めた単位数は43単位から42単位となる（TA実習の単位数分を減ずる）。

(4) 「TAの集い」活動への支援〔TA部会〕

TA有資格者が関東、中部、関西の3支部において、会員相互の情報交換および自己研さんのために、勉強会や見学会などを実施している。TAが能力を向上させ、ビジネススキルを磨くことにより社会で活躍できるようにサポートする。

(5) TA交流プロジェクト〔TA部会：TA交流プロジェクト〕

学生に対して社会で活躍するTAが、資格取得の意義、社会で役立つ知識、就職活動などの経験談を伝え、学生のTA取得に対するモチベーションを高めて、TA取得希望者を増やすことを目的としている。担当は、TA、TA資格を有する常任委員を中心に実施しているが、2025年度も映像によるコミュニケーションを継続する。

2. 繊維製品品質管理士（TES）関連事業

（1）TES試験の実施・認定・登録〔TES試験委員会〕

①新規登録試験（第44回）

日程	内容
4月1日	要項公示
4月1日～5月23日	出願受付
7月13日	試験日 【試験場】 ・東京試験場……実践女子大学 or 文化学園大学 ・名古屋試験場…名古屋プライムセントラルタワー ・関西試験場……京都女子大学 ・福井試験場……福井大学 ・倉敷試験場……倉敷ファッションセンター ・福岡試験場……J R博多シティ会議室
9月中旬	合否判定
9月中旬	合否通知発送
10月中旬	登録申請受付締め切り
11月1日	認定日

※2025年度より Web 申請を導入

③ 登録更新試験（第4期、9期、14期、19期、24期、29期、34期、39期の1,617人が対象）

登録更新試験免除者は818人、登録更新試験受験者は799人である。

日程	内容
3月中旬	試験要領通知
4月1日～4月15日	代替措置受付
4月下旬	代替措置可否の通知
6月1日～6月末日	試験受付
9月上旬	合否判定
9月中旬	合否通知
10月中旬	更新申請受付締め切り
11月1日	認定日

※試験免除の条件はTES会参加実績8回以上、TES会講師2回、TES会幹事2年以上としている。

（2）TES試験出願のWeb申請

2025年度より Web 申請を導入し、出願者の利便性を上げていく。支払い方法も従来のゆうちょ銀行振込に加え、クレジット決済、コンビニ決済、バーコード決済等を加えた環境を構築する。

ただし、従来の書類による出願も並行して受付を行う。

（3）TES将来構想部会〔TES試験委員会、TES部会〕

これからのTESのあるべき姿、制度、試験内容などについて、部会（2023年8月発足）で検討を重ねてきた。2025年1月の会議で今までの内容を精査し、今後第2段階として施策を実行に移していく予定

目標：TES試験出願者の増進、TES会員を増やす、TES会活動の活性化を図る、TESのブランド化を推進する等

〔部会〕

永野暁委員、藤田雅夫委員、清嶋展弘委員、永野孝志委員、田中厚三委員、住吉弘一委員

(4) TES会活動への支援〔TES部会〕

①各支部活動への支援

今後、本部主催のセミナーを計画し、各支部との連携を強化する予定。併せて講師依頼などの各支部の業務負担を軽減する。

東日本・中部・西日本（九州を含む）・北陸・中国支部のそれぞれの勉強会、研究会、見学会などの自己研さん活動、およびTES相互の情報交流が活発に推進できるように支援する。

②関連する行政機関との連携

経済産業省や消費者庁との情報交換会を開催し、最新情報を入手するとともに行政との連携を強化する。2025年度は2026年2月～3月に実施予定

③『TES会通信』の発行（4月、6月、8月、10月、12月、2026年2月）

TES会通信・会報・ミニ情報と同様2025年秋を目標とし、電子配信に切り替えを予定
なお、過渡期においては紙媒体の発行も並行して行う。

3. 出版事業〔出版部会〕

(1) TES試験参考テキスト

『繊維製品の品質究明ガイド』の発刊

TES受験の事例対策用のテキストをJIS規格の改訂の反映、事件事例の見直しも行う、修正し、発刊する。

発刊時期：2025年10月予定

執筆者：永野暁委員、清嶋展弘委員、本郷利明委員、内山雅章委員、藤本晋委員

(2) TES試験参考テキスト〔TES試験委員会〕

『試験問題集（2023年・2024年・2025年分）』発刊（2026年1月予定）

4. 研修関連事業〔研修部会〕

(1) TA養成教員のためのブラッシュ・アップ講座

現状、候補地は未定。2026年2月～3月に実施予定

5. 調査関連事業〔調査部会〕

衣料の使用実態調査、トピックス調査については、2024年度実施分のデータを分析し、報告書を刊行する。

(1) 衣料の使用実態調査

	2024年度実施分	2025年度実施
対象者	学生…23校、約600人/ 母約600人	学生…23校、約600人 母約600人
依頼時期	2024年11月	2025年11月
回収	2025年2月	2026年2月
報告書刊行	2026年2月	2027年2月

(2) トピックス調査

	2024年度実施分	2025年度実施
テーマ	衣料品の維持・ケア、廃棄・処分に関する調査	未定
対象者	学生…23校、約600人/	学生23校、約600人 母約600人
依頼時期	2024年11月	2025年11月
回収	2025年2月	2026年2月
報告書刊行	2026年2月	2027年2月

(3) 就職状況調査

3月卒業のTA取得者の就職先を、4月に各大学へ調査を依頼し、その結果を6月にフィードバックする。

6. 広報事業

(1) TA関連〔TA部会〕

高校生・大学生にも理解しやすいパンフレットの作成、広報活動の推進

①大学新入生向け

- ・ポスターやパンフレットを会員大学へ送付する(3月)。
- ・TAに興味をもってもらえるようオープンキャンパスなどで配布する。

②高校生向け

- ・ポスターやパンフレットを全国約1,300の高等学校の進路担当者へ送付する(5月)。

③業界向け

- ・TES試験のPR企業や団体に、TAパンフレットや印刷物を郵送し、TAの知名度向上および就職先の開拓を図る。
- ・TES会と連携することで、TAの認知度向上を図る。

④日本アパレル・ファッション産業協会などと連携し、情報交換会を開催して、TAのPRを実施する。

⑤SNS (Instagram、X) を積極的に活用し、TAおよびTA養成大学について発信する。

(2) TES関連〔TES部会〕

①ポスター、パンフレットを繊維業界団体・企業・行政機関・大学等へ送付し、TESの認知を周知し、出願者を増やす。

<依頼先>

繊維関係(ファッション、インテリア、寝装寝具、産業用)の業界団体・検査機関、繊維業界の企業、ネット企業、百貨店、ショッピングセンターや駅ビルなどのディベロッパー、国民生活センター・消費生活センター・繊維工業試験場などの行政機関、教育機関(大学・専門学校ほか)など

- ② 企業や団体を訪問し、社会のなかでTESに求められる資質、メリットを説明し、出願依頼を行う。
- ③ 企業の人事部門へTESの社会的な存在意義を訴え、人材育成につなげていただくような受験を推奨してもらう。
- ④ 業界専門誌、学会誌などへ試験実施要項を掲載し広報する。
- ⑤ 協会のホームページへTES試験問題、解答、合格者の企業一覧などの情報を掲載
- ⑥ 業界紙(織研新聞・繊維ニュースなど)への広告を掲載し、TES出願依頼

- ⑦ 各繊維学会、JTCCとの連動によりTESの価値を周知する
- ⑧ SNSの積極的な活用を行い、TES制度およびTES試験を広く周知する。

(3) 会報・ミニ情報の発行〔会報・ミニ情報部会〕

TA、TES、協会事業などを社会（関係先）や会員にPRする。
2025年秋を目標に電子配信へ切り替え予定。ただし、過渡期には紙による発送も併せて行う。

会報	第208号（4月1日発行） 第209号（7月1日発行） 第210号（10月1日発行） 第211号（2026年1月1日発行）
ミニ情報	4月、6月、8月、10月、12月、2026年2月発行

7. 事務局運営事業

(1) ホームページ活用の推進

- ・日本衣料管理協会・TA・TESの3つのHPを集約・リニューアル済み（2024年9月）
- ・SNSによるTAなどの広報活動
こまめな更新（一週間内に最低1回など）を行い、アクセスの機会を増やすようにする。
- ・TES会行事案内・変更時のHPの活用
- ・TAの集い行事案内、変更時のHPの活用
- ・書籍申込受付
- ・住所変更などの利用促進

(2) 省力化、効率化、働き方改革の推進

- ・業務内容の見直しを行い、効率的な人材活用を行う。

(3) 定款・規則・規程等の整備

- ・事務局就業規定他各種規定を改訂（2025年より適用予定）